

スウオ スターイ!



良さや面白さ、おかしいと思うところがわかります。その国に行ってみて、はじめて分かる良さもたくさんあります。そして、そこに友だちができます。そうしてできた大切な友だちと、一緒に考えてください。それぞれが生まれたすてきな国と国が、けんかをしないように。そんな人たちが、そんな子どもたちが、増えるといいなと思っています。そうやっていくと、いつか、人が人を傷つけあう悲しい今をのりこえる日がくると信じて、私も今、カンボジアの人たちと一緒に、カンボジアで暮らしています。では皆さん、「リア サン ハウイ!」じゃあね!

チョムリアップソー、クニヨム チュモツ

私の配属先は首都プノンペン市郊外にある中等体育教員養成学校です。中学校および高校の体育教員を育成するための2年制の学校でカンボジア唯一の体育系の教育機関です。私は「カイソンポアン(集団で行う身体運動)」を担当し、カウンターパート(同僚)が行なう授業のサポートを行なっています。「カイソンポアン」の内容は日本のラジオ体操やリズム体操です。

プノンペンはカンボジアの首都で、人とモノに溢れ活気のある街ですが、日本との違いは色々なところに見られます。その差が歴然としているものの一つが「交通事情」です。市内には電車や地下鉄が無く、市内を循環するバスやタクシーも走っていません。「モトドップ」というバイクタクシーが一般市民の主な足です。このバイクを自分で運転する人も多いのですが、ノーヘル、3・4人乗りは当たり前。排気量によっては免許が不要なので小学生ぐらいの子どもも運転しています。これには驚きました!

この国に来てすぐの頃、日本について聞かれた時に私はうまく説明することができませんでした。自分の生まれ育った国についてそれほど深く考えたことがありませんでした。でも今、日本を離れ、カンボジアの人や文化・習慣に触れていく中で、何となく自分の生まれ育った国や町について考えるようになりました。知っているようで知らないことがたくさんあるのだということに気づかされました。ぜひ、みなさんも自分オリジナルの発見を探し求めてみてください。「発見の種」は意外と身近なところにも転がっているかもしれませんよ。



クズザンポーラ

カンボジア 体育 小堀 健介



ブータンでは、数年前から体育の教科が必修となり、その基礎作りのため、私は派遣されました。この国では民族衣装の着用が義務づけられていて、子どもたちも民族衣装で登校してきますが、この服装は動きづらく体育の授業に適していません。そのため、まず動きやすい服に着替えるよう指導することから始めました。ボールなどの物がない中、体育の授業を行うのは大変ですが、体育の授業を通して、仲間と協力し楽しく運動することの喜びを伝えていけたらと考えています。

この国は、伝統的な文化が残る国です。私もみんなに教えてもらい「ゴ」や「キラ」と呼ばれる日本の着物に似た民族衣装を着ています。民族衣装を着て町に出かけた時には、現地の人に間違えられることもあります。断水や停電が日常的に起こりとても不便ですが、ブータン人は冷蔵庫や洗濯機などを使わずに生活しているので、自分だけ弱音を吐くわけにはいきません。最初は戸惑い、苦勞もりましたが、最近は日本との違いが楽しく思えるようになりました。

ブータンは標高が高いので、冬は北海道のように寒くなりますが、子どもたちはみんな元気に過ごしています。運動靴がなく、裸足で体育をしている子もいます。日本と比べるとお金も物もなく、貧しい生活をしているようですが、だからといって不幸せに暮らしているわけではありません。ブータン人は、友だちや家族と過ごす時間を大切にします。そして、そんな時間がとても幸せだと言っています。私も、そんなブータン人の温かさに触れ、とても楽しく貴重な時間を過ごしています。みなさんも、友だちや家族を大切にして、ブータンの子どもたちに負けないくらい元気に過ごしてください。

中南米

ブエノス・ディアス

エルサルバドル 体育 白井 卓

「教員技能開発センター」という施設で、公立学校で体育を教えている現職教員を対象に体育教育に関する講義や授業で使えるアイデアの提供(実技)などを行っています。日本の運動会を紹介した際には参加者全員興味津々、ムカデ競争や4人5脚などに悪戦苦闘しながらも楽しそうに取り組んでいました。

気候は雨季(5~10月)と乾季(11~4月)があります。気温は一年を通じて最高が30℃前後、最低が17℃前後とはほぼ一定で、暑さに慣れれば過ごしやすいところです。「アング熱」にかかったり、必ずしも順調というわけではありませんでしたが、新しい発見の連続に刺激を受けつつ、楽しく有意義な生活を送っています。驚いたのが、都市部の大型ショッピングモール。ここは家電製品や生活用品など揃わないものがないくらいです。反面、そのすぐ脇の路上やバスの中ではお金や物を乞う人が見られ、開発途上国

